



この戦で
兄の貞任は
厨川柵で
戦死
弟の宗任は
捕われの
身となり
京都に連行
されました



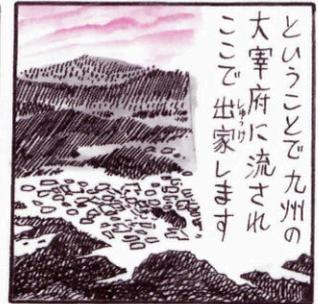
朝廷は
宗任を
殺すには
おしい男
だとして
島流しを
命じます



宗任は
はじめ四国の
愛媛に
流されましたが



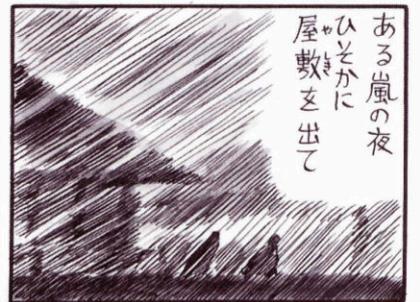
ここでは
逃亡の恐れ
がある
役人の多い
大宰府は
どうだろう



ということで九州の
大宰府に流され
ここで出家します



しかし奥羽(東北地方)
の山野を駆けめぐり
いた宗任にとって
自由のないくらしは
ガマンなりません



ある嵐の夜
ひとかたに
屋敷を出て



従者とともに
小舟で
玄海灘に
乗り出
しました



波に
なまら
ながら



流れついたのが
三隅の浜辺



そこで宗任は
この地に住み
三隅の上地区を
おさめました



宗任は故郷 今泉の
川土手の桜並木を
しのび 家のまわり
桜を植えました



また弓の名人でも
あったので ひまさえ
あれば家の前から
三隅川をへだてた
縦の木側の山に
向かって弓を
射っていたそうです



しかしその後故郷に
帰る機会もなく
この地で亡くなりました



地区の人々は
宗任をしのんで
屋敷のうら山に
小さな祠を建て
安倍三郎平
宗任靈神
宗任大明神として
祭るとともに



この地区を
彼の名をよって
宗頭と
呼ぶように
なったそうです



なお豊原には
戦死したとされる
兄・貞任も弟と一緒
に三隅にのがれ
豊原の新宮に
屋敷をかまえ
勢力をふるって
いたという話が
あり

今でも
貞任
の「
的場」
という
地名が残
っています